

0001 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

施工計画に関する経験記述として最も適切なものはどれか。

- ア．『既設通信を停止できない条件下で切替時間が2時間に限られたため、仮設回線を先行構築し、切替手順を時系列化した』のように条件・課題・対策を具体的に書く。
- イ．『安全第一で施工した』だけを書く。
- ウ．『問題なく終わった』だけを書く。
- エ．工事名だけを書き施工条件を省略する。

答え・解説

正答：ア

ア：施工経験記述では、工事条件と技術的課題、それに対する自らの具体策がつながっていることが重要である。
イ：抽象的で技術的課題と対策が分らない。
ウ：施工計画上の工夫が示されない。
エ：経験内容の具体性が不足する。
総合解説：良い記述は、制約条件→課題→具体策→結果の流れが明確である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0002 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

施工経験記述で自分の関与を示す表現として最も適切なものはどれか。

- ア．『誰かが計画した』と書く。
- イ．『私は現場代理人として切替計画を作成し、関係設備管理者との調整を行った』と役割を明示する。
- ウ．会社全体の実績だけを書く。
- エ．自分が担当していない作業を担当したと書く。

答え・解説

正答：イ

ア：本人の関与が不明である。
イ：誰が何を判断したかを明確にすると、施工管理上の実務経験を具体的に示せる。
ウ：自分の施工管理経験が示されない。
エ：事実と異なる記述は不適切である。
総合解説：施工経験記述では、自分の立場・責任・判断範囲を正確に書く。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0003 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

施工計画の経験記述で数値を用いる利点として最も適切なものはどれか。

- ア．数値を書けば内容が間違っても評価される。
- イ．数値は施工計画では一切使わない方がよい。
- ウ．工期、切替時間、施工数量、作業範囲などを具体化でき、対策の妥当性を説明しやすい。
- エ．施工数量と無関係な数値を多く書くほどよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：正確な数値である必要がある。
イ：具体性を高めるのに有効である。
ウ：数値は施工条件と判断根拠を具体化するのに有効である。
エ：関連性のある数値を使うべきである。
総合解説：定量情報は、課題の大きさと対策効果の説明に使う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0004 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

施工計画の対策を書いた後に続ける内容として最も適切なものはどれか。

- ア．結果は書かず対策だけで終える。
- イ．成功した理由を『運が良かった』だけとする。
- ウ．実際と異なる成果を記載する。
- エ．対策によって工期内に完了した、停止時間を目標内に収めた等、確認可能な結果を書く。

答え・解説

正答：エ

ア：有効性が分かりにくい。
イ：施工管理上の説明にならない。
ウ：不適切である。
エ：対策の有効性を示すには、施工結果や確認結果まで記述するのが望ましい。
総合解説：経験記述では対策と結果の因果関係を明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0005

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

供用中の通信設備を更新する工事で、停止可能時間が深夜2時間のみである。経験記述として最も適切な施工計画はどれか。

- ア．事前組立・仮設回線・切替リハーサルを先行し、本切替作業を停止時間内に限定する。
- イ．停止後に初めて材料確認を始める。
- ウ．切替手順を現場で考える。
- エ．仮設回線を準備せず失敗時の復旧手順も設けない。

答え・解説

正答：ア

ア：限られた停止時間では、停止前にできる作業を最大限前倒しする計画が有効である。
イ：停止時間を浪費する。
ウ：時間超過リスクが高い。
エ：供用影響が大きい。
総合解説：施工計画では制約条件を起点に前倒し・代替・復旧策を組み立てる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0006

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

輸入通信機器の納期が長く、据付工程のクリティカル作業となる場合、最も適切な経験記述はどれか。

- ア．据付予定日の前日に発注した。
- イ．承認図・発注・製作・試験・搬入を工程表に分解し、承認遅延を早期管理した。
- ウ．機器到着までは工程管理しなかった。
- エ．承認図の提出時期を決めなかった。

答え・解説

正答：イ

ア：納期条件を無視している。
イ：長納期品は調達工程を施工工程と一体管理する必要がある。
ウ：遅延の早期把握ができない。
エ：調達開始が遅れる。
総合解説：施工計画では材料承認・調達・搬入も工期に影響する作業として管理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0007

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

狭い通信機械室でラック据付とケーブル敷設を同時に行うと作業干渉が大きい。最も適切な施工計画はどれか。

- ア．全作業班を同時に投入する。
- イ．資材を避難通路に仮置きする。
- ウ．ラック据付・固定・通路確保後にケーブル敷設を進めるなど、干渉を減らす施工順序を設定する。
- エ．班間の作業範囲を決めない。

答え・解説

正答：ウ

ア：混雑と干渉が増える。
イ：安全性を損なう。
ウ：作業空間が限られる現場では、同時施工より順序調整が安全・品質・生産性に有効である。
エ：干渉防止にならない。
総合解説：施工計画は作業順序・動線・資材置場を具体化する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0008

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

既設配線図が古く現況との相違が想定される改修工事で、最も適切な施工計画はどれか。

- ア．既設図を絶対視して現地確認しない。
- イ．撤去しながら回線用途を確認する。
- ウ．不明回線はすべて不要と判断する。
- エ．切替前に現地トレース・回線確認を行い、既設図を現況へ更新してから施工手順を確定する。

答え・解説

正答：エ

ア：現況との差を見逃す。
イ：誤切断の危険がある。
ウ：供用回線の可能性がある。
エ：既設情報が不確かなまま切断・撤去すると誤停止事故につながる。
総合解説：改修工事では事前調査結果を施工計画の前提条件とする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0009

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

屋外通信設備工事で仮設電源が必要な場合、経験記述として最も適切な内容はどれか。

- ア．必要容量、供給経路、漏電保護、停電時の代替手段を確認して仮設電源計画を作成した。
- イ．延長コードを現場で必要なだけ継ぎ足した。
- ウ．漏電保護を検討しなかった。
- エ．電源容量を確認しなかった。

答え・解説

正答：ア

ア：仮設設備も本設と同様に容量・安全・信頼性を計画する必要がある。
イ：容量・安全管理が不十分である。
ウ：感電・火災リスクがある。
エ：過負荷の可能性がある。
総合解説：仮設計画では必要機能と安全対策を具体的に示す。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0010

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

現場で設計図と既設設備位置が大きく異なることが判明した。最も適切な施工計画上の対応はどれか。

- ア．作業者判断で位置を変更して記録しない。
- イ．作業を一旦止めて現況を確認し、設計者・監督職員等と協議して変更内容を正式に反映する。
- ウ．設計図を無断修正する。
- エ．現況差を無視して施工する。

答え・解説

正答：イ

ア：変更管理が不適切である。
イ：現場条件が前提と異なる場合、独断施工せず計画を見直す必要がある。
ウ：正式な承認が必要である。
エ：品質・機能に影響する。
総合解説：施工計画は固定的なものではなく、条件変化に応じて正式に更新する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0011 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

供用中庁舎で、昼間は騒音作業禁止、夜間停止可能時間は3時間、搬入口も狭い。最も適切な施工計画はどれか。

- ア．すべて夜間3時間内に搬入・組立・切替する。
- イ．昼間に騒音作業を行い施設条件を無視する。
- ウ．昼間に静音の事前組立・配線準備を行い、夜間は切替作業へ限定し、機器は分割搬入できる手順とする。
- エ．搬入口寸法を確認せず大型機器を一括納入する。

答え・解説

正答：ウ

ア：時間超過リスクが高い。
イ：発注条件に反する。
ウ：複数制約を分解し、時間帯・工法・物流を組み合わせで施工可能な計画へ落とし込む必要がある。
エ：搬入不能の可能性がある。
総合解説：優れた施工計画は、工程・品質・安全・施設運用条件を同時に満たす。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0012 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

施工経験記述の内容として、最も評価しやすいものはどれか。

- ア．課題は品質、対策は人員増員、結果は無災害で、相互関係が説明されていない。
- イ．対策を多数挙げるが何の課題に対するものか示さない。
- ウ．結果だけを『成功した』と書き根拠を示さない。
- エ．『課題：切替停止2時間』『対策：事前リハーサルと仮設回線』『結果：停止95分で復旧確認完了』のように課題・対策・結果が対応している。

答え・解説

正答：エ

ア：論理のつながりが弱い。
イ：焦点が不明確である。
ウ：確認可能性が低い。
エ：記述の各要素が論理的につながり、具体的な確認結果があると施工管理能力を示しやすい。
総合解説：施工経験記述では文章量より、課題・判断・具体策・結果の整合性が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0013 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

品質管理の経験記述として最も適切なものはどれか。

- ア．『光ファイバ接続損失を管理値以内に収めるため、融着前清掃・端面確認・接続後OTDR測定を実施した』と管理項目と確認方法を書く。
- イ．『高品質を心掛けた』だけを書く。
- ウ．『材料は良いものを使った』だけを書く。
- エ．検査結果を書かず感想だけを書く。

答え・解説

正答：ア

ア：品質記述では対象品質、管理方法、判定方法を具体的に示すことが重要である。
イ：具体的な品質管理行為が分からない。
ウ：管理基準・確認方法が不明である。
エ：客観性が不足する。
総合解説：品質管理は要求品質→管理方法→検査・測定→結果の流れで書く。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0014 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

品質管理の経験記述で規格値・管理値を明示する利点として最も適切なものはどれか。

- ア．規格値を書けば測定は不要になる。
- イ．何を基準に合否を判定したかが明確になる。
- ウ．規格値は実際と違っていてもよい。
- エ．規格値は品質管理と無関係である。

答え・解説

正答：イ

ア：実測・試験が必要である。
イ：品質管理は客観的な基準に基づく適合判定が重要である。
ウ：正確である必要がある。
エ：判定基準として重要である。
総合解説：設計図書・仕様書・承認値など、実際に適用した基準を用いる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0015 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

品質管理の結果を裏付ける記録として最も適切なものはどれか。

- ア．作業者の記憶だけ。
- イ．工事と無関係な写真。
- ウ．試験成績表、測定記録、検査記録、必要な工事写真。
- エ．未記入の帳票。

答え・解説

正答：ウ

ア：客観的記録ではない。
イ：品質の証拠にならない。
ウ：品質管理では測定・検査の実施だけでなく記録の追跡性が重要である。
エ：品質結果を確認できない。
総合解説：記述では『どの記録で適合を確認したか』まで示すと具体性が高い。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0016 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

重要通信機器の受入時に外装損傷が見つかった。品質管理記述として最も適切な対応はどれか。

- ア．梱包を交換して内部確認せず使用する。
- イ．納期優先でそのまま据え付ける。
- ウ．損傷記録を削除する。
- エ．使用を保留し、外観・試験成績・機能への影響を確認して、必要なら交換・メーカー確認を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：損傷影響を確認できない。
イ：品質リスクが残る。
ウ：不適切である。
エ：受入時の異常を施工後まで持ち込まないことが品質管理の基本である。
総合解説：品質管理は施工中だけでなく材料受入から始まる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0017 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

微小な接続損失を判定する測定で、測定器の校正期限が切れていた。最も適切な対応はどれか。

- ア．使用を止め、校正状態が有効な測定器で再測定する。
- イ．値が良ければ校正期限は無視する。
- ウ．前回の測定値を転記する。
- エ．測定せず目視だけで合格とする。

答え・解説

正答：ア

ア：品質判定の信頼性には測定器の精度・校正状態が影響する。
イ：測定信頼性が確保できない。
ウ：実測にならない。
エ：要求試験を満たさない。
総合解説：品質管理記述では測定方法だけでなく測定器管理も重要な論点となる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0018 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

埋設後に確認できなくなる接地線接続部の品質を管理する場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．埋戻し後に記憶で記録する。
- イ．埋戻し前に接続状態・寸法等を確認し、必要な測定結果と写真を残す。
- ウ．不可視部は品質管理対象外とする。
- エ．写真だけ撮り接続状態を確認しない。

答え・解説

正答：イ

ア：客観性がない。
イ：完成後確認できない部分は隠蔽前に品質・出来形を記録する必要がある。
ウ：管理が必要である。
エ：品質確認が不足する。
総合解説：不可視部では検査タイミングを工程へ組み込むことが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0019 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

同一条件の光融着接続で損失値のばらつきが大きくなった。最も適切な品質管理はどれか。

- ア．最小値だけ記録して他を捨てる。
- イ．ばらつきが大きいほど品質が安定していると判断する。
- ウ．作業者、融着機、端面処理、清掃状態等を比較し、ばらつき要因を特定して標準手順を見直す。
- エ．原因分析せず測定回数だけ減らす。

答え・解説

正答：ウ

ア：実態を隠すことになる。
イ：逆である。
ウ：平均値が規格内でも、ばらつき増大は工程異常の兆候となる。
エ：改善にならない。
総合解説：品質記述では不良発見→原因分析→是正→再確認まで示すとよい。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0020 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

通信試験で一部回線の損失が規格外となった。最も適切な品質管理記述はどれか。

- ア．規格値を実測値に合わせて変更した。
- イ．不良回線の記録だけ削除した。
- ウ．他回線が合格なので無視した。
- エ．該当区間を切り分け、コネクタ・融着部・曲げ等を点検し、是正後に再試験して適合を確認した。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切である。
イ：品質記録の改ざんとなる。
ウ：不適合を放置できない。
エ：不良時は原因を切り分け、処置後に再試験で適合確認することが重要である。
総合解説：品質不良は『直した』だけでなく、再試験結果まで確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0021 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

同一日に施工した複数回線で同様の接続損失不良が発生した。最も適切な対応はどれか。

- ア．当日使用した機器・消耗品・作業条件・作業者を共通因子として調査し、同日施工範囲を追加確認する。
- イ．最初の1回線だけ直して終了する。
- ウ．不良記録を分散して関連性を見えなくする。
- エ．各回線は無関係と決めつける。

答え・解説

正答：ア

ア：複数箇所と同じ不良が出た場合、共通原因と影響範囲を確認する必要がある。
イ：潜在不良を見逃す。
ウ：原因分析を妨げる。
エ：共通条件を検討すべきである。
総合解説：品質管理では個別不良だけでなく、ロット・日時・作業条件の横断分析が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0022 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

品質不良の原因分析から是正結果までを一連の施工経験として示す場合、最も適切な記述はどれか。

- ア．課題と無関係な安全パトロールだけを書く。
- イ．『課題：接続損失のばらつき』『原因：端面清掃方法の不統一』『対策：手順統一と作業前確認』『結果：再測定で全点管理値内』と記述する。
- ウ．原因を確認せず『注意した』だけを書く。
- エ．結果を書かず『品質向上に努めた』で終える。

答え・解説

正答：イ

ア：品質課題との関係が弱い。
イ：課題・原因・対策・結果が対応すると品質管理能力を具体的に示せる。
ウ：再現性のある対策にならない。
エ：効果確認がない。
総合解説：品質記述は不良予防または不良是正の論理を一貫させる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0023 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

安全管理の経験記述として最も適切なものはどれか。

- ア．『事故に注意した』だけを書く。
- イ．『安全第一』の標語だけを書く。
- ウ．『屋上端部でアンテナ取替えを行うため墜落リスクがあり、作業区域を区画して墜落防止設備を設けた』と危険源と対策を対応させる。
- エ．危険源を示さず保護具名だけ列挙する。

答え・解説

正答：ウ

ア：具体的な危険と対策が分らない。
イ：施工管理上の行動が示されない。
ウ：安全記述では危険の種類・発生状況・対策を具体的に示すことが重要である。
エ：対策の妥当性が判断できない。
総合解説：危険源→リスク→低減措置→確認という流れで記述する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0024 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

安全管理記述で対策を示す際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．常に保護具だけで全ての危険へ対応する。
- イ．注意喚起だけを最優先する。
- ウ．危険源を残したまま教育だけで十分とする。
- エ．危険作業自体の除去・工法変更等を優先し、その上で設備対策・管理・保護具を組み合わせる。

答え・解説

正答：エ

ア：上位対策を先に検討する。
イ：より実効性の高い対策がある。
ウ：工学的対策等を検討する。
エ：リスクアセスメントでは危険源の除去や工学的対策を上位に置く。
総合解説：安全記述でも、なぜその対策を選んだかをリスク低減の優先順位で説明するとよい。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0025 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

屋上アンテナ作業の安全管理記述として最も適切なものはどれか。

- ア．端部からの墜落を防ぐため、作業床・手すり等を優先し、必要な場合に墜落制止用器具を適切な設備へ接続した。
- イ．保護帽だけで墜落防止とした。
- ウ．端部手すりを撤去したまま作業した。
- エ．強風でも工程優先で継続した。

答え・解説

正答：ア

ア：墜落防止は作業床・手すり等の設備対策を基本とし、必要に応じて個人用保護具を併用する。
イ：保護帽は墜落を止めない。
ウ：危険である。
エ：気象条件を考慮すべきである。
総合解説：安全管理記述では設備対策と作業条件を具体化する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0026 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

クレーンで通信ラックを搬入する作業の安全管理として最も適切なものはどれか。

- ア．吊荷の真下に作業員を配置した。
- イ．吊荷重量・作業半径・地盤を確認し、吊荷経路を立入禁止として合図者を定めた。
- ウ．重量を目測だけで決めた。
- エ．複数人が別々の合図を出した。

答え・解説

正答：イ

ア：落下時に重大災害となる。
イ：揚重作業では機械安定、吊荷、立入管理、合図を一体で管理する。
ウ：定格荷重確認が必要である。
エ：誤操作につながる。
総合解説：安全経験記述では計画段階と作業中の管理をセットで示す。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0027 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

供用中施設の通路上で天井配線作業を行う場合の安全管理として最も適切なものはどれか。

- ア．作業員が保護帽を着用すれば通行者対策は不要である。
- イ．工具を天井開口部端へ仮置きする。
- ウ．作業直下を区画し、必要に応じて利用者を迂回させ、工具落下防止と監視員配置を行う。
- エ．利用者へ何も知らせず直上作業する。

答え・解説

正答：ウ

ア：第三者は保護されない。
イ：落下危険がある。
ウ：第三者が存在する場所では作業者保護だけでなく利用者の動線を分離する必要がある。
エ：公衆災害リスクがある。
総合解説：安全記述では誰を何から守るかを明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0028 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

当日、予定していたクレーン設置位置を変更することになった。最も適切な安全管理はどれか。

- ア．朝のKYを実施済みなので変更を無視する。
- イ．運転者だけに口頭で知らせる。
- ウ．作業終了後に変更点を記録するだけ。
- エ．地盤・架空線・旋回範囲・立入区域を再評価し、関係者へ変更内容を周知してから作業する。

答え・解説

正答：エ

ア：新たな危険が生じる可能性がある。
イ：関係作業員への周知が必要である。
ウ：施工前に安全確認が必要である。
エ：条件変更時は当初リスクアセスメントをそのまま使わず再評価する。
総合解説：安全管理は現場条件の変化に応じて動的に更新する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0029 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

高所作業で墜落防止対策を実施した経験を記述する場合、最も適切な結果の示し方はどれか。

- ア．対策実施後に作業前点検を行い、手すり・墜落制止設備の状態を確認して無災害で完了したと記述する。
- イ．『事故が起きなかった所以对策は不要だった』と書く。
- ウ．点検せず設備設置だけを書いて終える。
- エ．無災害だった理由を運だけとする。

答え・解説

正答：ア

ア：安全対策は実施しただけでなく、現場で機能していることを確認したことまで示すとよい。
イ：結果から対策不要とは言えない。
ウ：実効性確認が不足する。
エ：安全管理の成果が示されない。
総合解説：安全記述では対策実施と点検・確認まで含める。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0030 6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

安全管理の経験記述として最も評価しやすいものはどれか。

- ア．危険は墜落なのに対策として騒音測定だけを書く。
- イ．『危険：吊荷が通路を横断』『対策：作業時間分離・立入禁止・合図者配置』『結果：接触・立入なしで搬入完了』と一貫しているもの。
- ウ．『注意した』だけで具体策を示さない。
- エ．結果を示さず標語だけで終える。

答え・解説

正答：イ

ア：対策が危険へ対応していない。
イ：危険源と対策、確認結果が対応している記述は、安全管理上の判断を明確に示す。
ウ：再現性がない。
エ：安全管理能力が伝わりにくい。
総合解説：安全経験記述では具体的な危険と低減措置を対応させる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0031 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

工程遅延が判明したときの初動として最も適切なものはどれか。

- ア．原因を確認せず人員だけ増やす。
- イ．工程表を見ずに予定どおりと判断する。
- ウ．遅延している作業と原因、後続工程への影響を把握する。
- エ．遅延記録を削除する。

答え・解説

正答：ウ

ア：原因に合わない対策になる可能性がある。
イ：遅延を把握できない。
ウ：工程遅延への対応は、まず事実と影響範囲を把握してから回復策を検討する。
エ：進捗管理として不適切である。
総合解説：遅延作業がクリティカルか、余裕時間があるかも確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0032 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

工程回復で優先的に確認すべきクリティカル作業の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．最も作業人数が少ない作業。
- イ．最も材料費が安い作業。
- ウ．完成日と無関係な作業。
- エ．遅れると工事全体の完成日に直接影響する作業。

答え・解説

正答：エ

ア：人数では定義されない。
イ：費用では定義されない。
ウ：逆である。
エ：クリティカルパス上の作業は工程余裕が小さく、遅延が全体工期へ波及しやすい。
総合解説：回復策はクリティカル作業を中心に検討する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0033 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

ある作業に3日の余裕時間があり、2日遅れた。後続条件に変化がない場合の基本的な判断として最も適切なものはどれか。

- ア．余裕時間内の遅れであれば、直ちに全体完成日へ影響しない可能性がある。
- イ．2日遅れれば必ず工期が2日延びる。
- ウ．余裕時間は工程管理と無関係である。
- エ．遅れた作業は必ず削除する。

答え・解説

正答：ア

ア：工程余裕は一定範囲の遅れを吸収できる時間である。
イ：余裕時間を考慮していない。
ウ：重要な判断要素である。
エ：工程回復の判断にならない。
総合解説：ただし他作業との資源競合や追加遅延も確認する必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0034 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

工程管理で実績工程を定期的に更新する主な理由として最も適切なものはどれか。

- ア．完成後にだけ見るため。
- イ．予定との差を早期に把握し、遅延対策を行うため。
- ウ．予定工程を変更できなくするため。
- エ．遅延を隠すため。

答え・解説

正答：イ

ア：施工中の管理に使う。
イ：工程表は作成して終わりではなく、実績との比較に使う。
ウ：実績に応じ見直す場合がある。
エ：逆である。
総合解説：出来高・進捗率・主要マイルストーンを継続確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0035 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

工程回復策として最も適切な考え方はどれか。

- ア．検査をすべて省略する。
- イ．休憩をなくして無制限に作業する。
- ウ．作業順序、施工方法、人員・機械、並行施工可否を安全・品質を損なわない範囲で見直す。
- エ．承認前の材料を無断使用する。

答え・解説

正答：ウ

ア：品質保証を損なう。
イ：安全・労務上不適切である。
ウ：工程短縮だけを目的に安全・品質を犠牲にしてはならない。
エ：品質・契約上不適切である。
総合解説：回復策は工程・品質・安全・法令を同時に満たす必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0036 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

主要通信機器の納入が10日遅れると判明した。最も適切な初期対応はどれか。

- ア．納入日まで何も検討しない。
- イ．未承認の代替機器を無断使用する。
- ウ．工程表から機器据付を削除する。
- エ．据付・試験・切替への影響を確認し、代替品、先行可能作業、納期短縮の可否を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：回復機会を失う。
イ：品質・契約上不適切である。
ウ：工事目的を達成できない。
エ：調達遅延では後続工程への波及を早く見極めることが重要である。
総合解説：代替採用時は性能・互換性・承認も確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0037 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

ケーブル敷設作業が遅れているため人員倍増を検討する。最も適切な判断はどれか。

- ア．作業空間、班間干渉、必要技能を確認し、増員が実際に生産性向上につながるか評価する。
- イ．人数を倍にすれば工期は必ず半分になる。
- ウ．技能差を確認せず全員同じ作業へ投入する。
- エ．指揮者を減らして作業員だけ増やす。

答え・解説

正答：ア

ア：狭い現場では増員が混雑を生み、逆効果になることがある。
イ：作業条件を無視している。
ウ：品質低下の可能性がある。
エ：統制が難しくなる。
総合解説：工程回復ではボトルネックに合う資源投入が必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0038 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

ラック据付と一部ケーブル端末処理を並行化して工程短縮したい。最も適切な対応はどれか。

- ア．すべての作業を無条件で同時施工する。
- イ．作業干渉、安全、品質、先行条件を確認し、独立して施工できる範囲だけ並行化する。
- ウ．ラック固定前に重量ケーブルを掛ける。
- エ．班間調整を行わない。

答え・解説

正答：イ

ア：干渉リスクが高い。
イ：並行施工は有効だが、前後関係を見極めると手戻りや事故が増える。
ウ：先行条件を満たさない。
エ：混在作業となる。
総合解説：工程短縮では依存関係を見極めて安全な並行化を行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0039

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

遅延回復のため完成試験を短縮する案が出た。最も適切な対応はどれか。

- ア．規格値確認を省略する。
- イ．試験記録を事前に作成する。
- ウ．必須試験は省略せず、試験準備の前倒しや要員配置見直しで時間短縮を図る。
- エ．一部不合格でも全体合格とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：品質保証ができない。
イ：虚偽記録となる。
ウ：工程回復を理由に品質確認を省略してはならない。
エ：不適合を放置できない。
総合解説：工程と品質はトレードオフではなく、手順改善で両立を図る。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0040

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

屋外アンテナ工事が強風で2日中止となった。最も適切な工程対応はどれか。

- ア．強風でも高所作業を継続する。
- イ．中止した2日分を記録しない。
- ウ．工期遅延を避けるため安全基準を緩和する。
- エ．安全基準を維持したまま、屋内先行作業や後続工程の再配列で回復余地を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：安全を損なう。
イ：工程管理として不適切である。
ウ：不適切である。
エ：悪天候時に危険作業を強行せず、別作業へ切り替える方法が有効である。
総合解説：天候リスクを見込んだ予備日・代替作業も施工計画に有効である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0041 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

施工図承認が遅れ、材料製作開始ができない。最も適切な対応はどれか。

- ア．未回答事項を整理して承認者と期限を共有し、部分承認や先行可能範囲を協議する。
- イ．承認なしで全材料を製作する。
- ウ．問い合わせを止めて待つ。
- エ．未承認図を承認済みとして扱う。

答え・解説

正答：ア

ア：承認待ちは管理可能な工程リスクであり、放置せず課題を具体化する。
イ：手戻りリスクがある。
ウ：遅延が拡大する。
エ：不適切である。
総合解説：承認工程は提出日・回答期限・未決事項を見える化する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0042 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

切替日を1週間前倒しする案が出た。最も適切な対応はどれか。

- ア．現場班だけで日程を決める。
- イ．材料、試験、利用者周知、他工事、要員等の先行条件を確認し、関係者合意の上で工程変更する。
- ウ．未完了試験を後回しにして切替する。
- エ．利用者へ知らせず供用停止する。

答え・解説

正答：イ

ア：関係条件を見落とす。
イ：マイルストーン変更は多数の関係者へ影響するため、単独判断してはならない。
ウ：品質リスクがある。
エ：運用影響が大きい。
総合解説：工程変更は工程表だけでなく周知・許可・品質条件も連動させる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0043 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

機器納入5日遅延、施工図承認3日遅延、屋外作業の雨天中止2日が同時に発生した。最も適切な工程分析はどれか。

- ア．5+3+2で必ず10日遅延と決める。
- イ．最大の5日だけ見て他は無視する。
- ウ．各遅延が同じクリティカルパス上か、重複期間があるかを確認し、単純合計せず完成日への実影響を算定する。
- エ．遅延原因を区別せず一括処理する。

答え・解説

正答：ウ

ア：工程関係を考慮していない。
イ：他経路がクリティカル化する場合がある。
ウ：複数遅延は発生日や工程経路が重なるため、日数を単純加算すると誤る場合がある。
エ：回復策が立てにくい。
総合解説：工程遅延は因果関係とクリティカルパスで評価する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0044 6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

切替予定まで7日しかなく、機器据付が3日遅れている。一方、試験は通常4日必要で一部は据付完了区画から先行可能である。最も適切な回復策はどれか。

- ア．試験4日を1日にして項目を省略する。
- イ．据付が全て終わるまで試験班を待機させる。
- ウ．未完成区画も合格扱いで切替する。
- エ．据付完了区画から試験を段階的に先行し、据付班と試験班の干渉を調整して並行施工する。

答え・解説

正答：エ

ア：品質保証を損なう。
イ：回復機会を失う。
ウ：不適切である。
エ：先行可能範囲を見つけて前後工程を重ねることで、安全・品質を維持しながら工期を回復できる。
総合解説：回復策は依存関係を再検討し、合法・安全・品質確保の範囲で並行化する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0045

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

品質不良を発見した直後の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．不適合箇所を識別し、後続工程への流出を止めて原因と影響範囲を確認する。
- イ．不良記録を削除する。
- ウ．他の箇所が合格なら無視する。
- エ．原因確認前に全設備を廃棄する。

答え・解説

正答：ア

ア：品質不良をそのまま次工程へ進めると手戻りが拡大する。
イ：不適切である。
ウ：不適合を放置できない。
エ：影響範囲を確認すべきである。
総合解説：識別・停止・原因確認・是正・再確認が基本である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0046

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

不合格箇所を手直した後の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．再試験を省略する。
- イ．同じ判定基準で再検査・再試験し、適合を確認する。
- ウ．初回不合格記録を消す。
- エ．作業者の自己申告だけで合格にする。

答え・解説

正答：イ

ア：適合確認ができない。
イ：手直した事実だけでは品質適合は証明できない。
ウ：履歴を残すべきである。
エ：客観的確認が必要である。
総合解説：不適合履歴と是正後結果を追跡可能にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0047 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

同一ロット材料で不具合が発生した場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．最初の1箇所だけ直す。
- イ．ロット番号を確認しない。
- ウ．同一ロットを使用した他の施工箇所も確認する。
- エ．材料原因の可能性を除外する。

答え・解説

正答：ウ

ア：影響範囲を見逃す。
イ：追跡に重要である。
ウ：材料ロットが共通原因なら未発見箇所にも不具合が潜在する。
エ：原因分析が必要である。
総合解説：品質不良は共通因子から範囲を広げて確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0048 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

同一箇所を2台の測定器で測ると大きく異なる値となった。最も適切な対応はどれか。

- ア．都合の良い測定値だけ採用する。
- イ．2値の平均を無条件で合格値とする。
- ウ．測定器差を記録しない。
- エ．測定器の校正・設定・接続条件を確認し、基準器等で測定系の妥当性を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：恣意的である。
イ：原因が不明なままである。
ウ：品質判断の根拠を失う。
エ：異常値は施工不良だけでなく測定系の不具合でも起こる。
総合解説：測定系と施工対象を切り分けて原因を特定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0049

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

同じ端末処理不良が3回続けて発生した。最も適切な対応はどれか。

- ア．個別手直しだけでなく、作業手順・工具・教育・検査方法の根本原因を見直す。
- イ．毎回同じ手直しだけ行う。
- ウ．不良回数が増えれば合格とする。
- エ．検査回数を減らす。

答え・解説

正答：ア

ア：反復不良は仕組みに共通原因が残っている可能性が高い。
イ：再発原因が残る。
ウ：そのような基準はない。
エ：不良を見逃す。
総合解説：再発防止には原因に対応した標準化が必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0050

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

施工後に、承認された型式と異なるケーブルが一部使用されていることが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．型式表示を消してそのまま使う。
- イ．使用範囲を特定し、性能・設計適合性を確認して、交換または正式な承認手続を含む処置を決める。
- ウ．通信できれば設計適合性は確認不要とする。
- エ．施工記録を承認型式へ書き換える。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切である。
イ：見た目が同じでも性能・規格が異なる可能性があり、無断代替を放置できない。
ウ：他の要求性能がある。
エ：虚偽記録になる。
総合解説：材料不適合は使用範囲・性能・承認の3点を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0051 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

埋戻し後に不可視部の写真不足が判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．別箇所の写真を流用する。
- イ．撮影日を偽って写真を作る。
- ウ．他の測定・検査記録で確認可能か評価し、不足する場合は監督職員等と追加確認方法を協議する。
- エ．品質確認不能でもそのまま合格とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：虚偽記録になる。
イ：信憑性を損なう。
ウ：写真がないからといって虚偽写真で補ってはならない。
エ：適切な確認が必要である。
総合解説：記録不足は品質証拠の不足として正式に処置する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0052 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

完成前検査で不良が見つかったが、同じ作業班が別区画を施工中である。最も適切な対応はどれか。

- ア．不良区画だけ隔離し他区画は無条件に継続する。
- イ．作業班へ原因を知らせない。
- ウ．検査頻度を下げる。
- エ．別区画の同種作業を一時確認し、同じ原因が流出していないか点検する。

答え・解説

正答：エ

ア：同種不良が拡大する可能性がある。
イ：再発防止にならない。
ウ：不良流出を助長する。
エ：不良の共通原因が作業班・手順にある場合、施工中区画にも波及する。
総合解説：品質不良時は影響範囲と進行中作業の両方を管理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0053 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

竣工試験で全50回線中12回線が同じ周波数帯で規格外となった。最も適切な対応はどれか。

- ア．個別回線だけでなく共通設備・設定・測定条件を疑い、系統全体の原因を切り分ける。
- イ．12回線を個別に交換して共通原因は見ない。
- ウ．38回線が合格なので全体合格とする。
- エ．規格外周波数帯を試験対象から削除する。

答え・解説

正答：ア

ア：同じ傾向の不良が多数発生した場合、共通原因の可能性が高い。
イ：再発や見落としの可能性がある。
ウ：不合格回線を放置できない。
エ：判定基準を恣意的に変えている。
総合解説：多数不良は系統構成・設定・共通部品・測定系から分析する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0054 6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

切替前日に重要回線の品質不良が判明し、是正には4時間必要だが予定切替まで3時間しかない。最も適切な判断はどれか。

- ア．規格外のまま切替し後日直す。
- イ．品質不良を未解消のまま切替せず、関係者と切替延期や代替回線を協議して品質確保を優先する。
- ウ．不良記録を削除して切替する。
- エ．再試験を省略すれば時間内に終わると判断する。

答え・解説

正答：イ

ア：供用リスクが高い。
イ：重要品質が満たせない状態で工程だけを優先すると供用障害につながる。
ウ：不適切である。
エ：品質確認を欠く。
総合解説：工程と品質が衝突する場合、要求品質を満たす代替策や日程変更を正式に判断する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0055 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

出来形判定として最も適切なものはどれか。

- ア．設計値だけ見て実測しない。
- イ．作業者の感覚だけで判断する。
- ウ．設計値・規格値と実測値を所定の測点で比較して適否を判断する。
- エ．最も良い値だけ選んで合否を決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：出来形を確認できない。
イ：客観性がない。
ウ：出来形管理は工事目的物の形状・寸法・位置等を実測して設計条件への適合を確認する。
エ：偏った判定である。
総合解説：測点・単位・測定器・記録方法も判定の信頼性に関係する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0056 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

出来形測定値がすべて規格値内である場合の基本的な判断として最も適切なものはどれか。

- ア．測点が誤っていても必ず合格である。
- イ．測定器が故障していても規格内ならよい。
- ウ．規格内でも必ず不合格となる。
- エ．測定方法・測点が適切であることを前提に、出来形要求へ適合していると判断できる。

答え・解説

正答：エ

ア：測定条件が正しい必要がある。
イ：測定信頼性がない。
ウ：通常は適合判断の根拠となる。
エ：規格内であることは合格判断の重要条件だが、測定自体の妥当性も必要である。
総合解説：数値だけでなく測定プロセスの妥当性を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0057 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

10測点中1点だけ規格外となった。最も適切な対応はどれか。

- ア．測定誤差の有無を確認し、真に規格外なら該当箇所を是正して再測定する。
- イ．9点合格なので平均して全体合格とする。
- ウ．規格外値を記録から削除する。
- エ．再測定せず作業者判断で合格にする。

答え・解説

正答：ア

ア：一部規格外を他の合格点で相殺することはできない。
イ：個別規格を満たす必要がある。
ウ：不適切である。
エ：客観性がない。
総合解説：規格外点は原因・影響範囲・是正後結果まで管理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0058 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

基準で10測点必要な出来形項目を6測点しか測定していない。最も適切な対応はどれか。

- ア．6点が良好なので測定終了とする。
- イ．必要な残り測点を追加測定し、規定された測定頻度を満たす。
- ウ．同じ1点を4回測り10点と数える。
- エ．未測定箇所の値を推定して記入する。

答え・解説

正答：イ

ア：基準の測点数を満たさない。
イ：測定点数不足では全体出来形を適切に評価できない。
ウ：必要な測点とはいえない。
エ：実測ではない。
総合解説：測定頻度・位置は施工前に管理計画へ組み込む。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0059 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

埋戻し後に埋設深さを直接測れなくなった。埋戻し前の測定記録と写真は残っている。最も適切な対応はどれか。

- ア．完成後に地表から勘で深さを決める。
- イ．写真があるので測定記録は一切不要とする。
- ウ．埋戻し前の所定測定記録・写真により出来形を確認する。
- エ．埋戻した時点で出来形管理対象外になる。

答え・解説

正答：ウ

ア：正確でない。
イ：要求される管理記録を満たす必要がある。
ウ：不可視部は隠蔽前に確認し、その記録を完成時の証拠とする。
エ：対象外にはならない。
総合解説：不可視部では撮影・測定タイミングの計画が重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0060 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

同一取付高さを2班が測定し、結果に8mmの差が出た。許容差は $\pm 5\text{mm}$ である。最も適切な対応はどれか。

- ア．合格になる方の値だけ採用する。
- イ．2値を平均して必ず合格とする。
- ウ．許容差を $\pm 10\text{mm}$ へ変更する。
- エ．基準点・測定方法・器具を確認して条件を統一し、再測定して真値を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：恣意的である。
イ：測定差の原因が不明である。
ウ：設計基準を勝手に変えられない。
エ：判定結果が測定者で変わる場合、まず測定再現性を確保する必要がある。
総合解説：出来形判定は測定システムの信頼性を含めて行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0061 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

ケーブルラック高さが5測点連続で設計値より同じ方向に外れている。最も適切な対応はどれか。

- ア．単一点の施工ミスより基準高さ・墨出し・取付治具の共通誤りを疑い、範囲を広げて確認する。
- イ．各測点が独立した偶然と決める。
- ウ．1点だけ直して他は放置する。
- エ．設計値を書き換える。

答え・解説

正答：ア

ア：連続した同方向偏差は系統的な原因の可能性が高い。
イ：共通原因を見落とす。
ウ：連続不適合が残る。
エ：不適切である。
総合解説：出来形の分布から原因を推定することも総合判断で重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0062 6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

アンテナ架台の取付位置は規格内だが、固定ボルトの締結品質に不適合がある。最も適切な完成判定はどれか。

- ア．位置が合格なので品質不良を無視する。
- イ．出来形だけで合格とせず、締結品質も是正・再確認してすべての要求事項を満たしてから合格とする。
- ウ．通信ができればボルト品質は不要とする。
- エ．出来形と品質は相殺できる。

答え・解説

正答：イ

ア：品質要求が未達である。
イ：工事目的物は出来形・品質・機能等の複数要求を満たす必要がある。
ウ：構造安全要求がある。
エ：別々に適合する必要がある。
総合解説：総合判定では一つの管理項目だけで全体合格を決めない。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0063 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

災害原因分析で『直接原因』と『根本原因』を区別する考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．直接原因だけ分かれば管理体制は調べない。
- イ．根本原因は被災者の性格だけとする。
- ウ．直接原因は災害直前の不安全状態・行動、根本原因はそれを生んだ手順・教育・管理体制等まで掘り下げて考える。
- エ．原因分析は責任者探しだけを目的とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：再発原因が残る可能性がある。
イ：組織・設備・手順も分析する。
ウ：再発防止には目に見える直前原因だけでなく、なぜその状態になったかを分析する必要がある。
エ：再発防止が主目的である。
総合解説：原因分析は人・設備・方法・管理・環境など複数観点で行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0064 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

災害原因分析における不安全状態の例として最も適切なものはどれか。

- ア．作業者が指示を無視して危険区域へ入る行動。
- イ．安全教育を受講すること。
- ウ．作業前点検を実施すること。
- エ．開口部の手すりが撤去されたままになっている状態。

答え・解説

正答：エ

ア：これは不安全行動に該当する例である。
イ：危険状態ではない。
ウ：安全管理行動である。
エ：設備・環境側の危険な状態は不安全状態として分析する。
総合解説：災害では不安全状態と不安全行動が重なることが多い。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0065 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

不安全行動の例として最も適切なものはどれか。

- ア．立入禁止区域へ許可なく進入する。
- イ．作業床に手すりを設置する。
- ウ．危険箇所をバリケードで区画する。
- エ．作業開始前にKYを行う。

答え・解説

正答：ア

ア：定められた安全ルールを逸脱した行動は不安全行動として分析対象となる。
イ：安全設備である。
ウ：安全措置である。
エ：安全活動である。
総合解説：ただし行動だけを責めず、なぜ逸脱したかを管理面まで掘り下げる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0066 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

ヒヤリハットを収集・分析する主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．負傷がないので記録を捨てるため。
- イ．負傷に至らなかった危険事象から重大災害の前兆を把握し、対策するため。
- ウ．作業者を罰するためだけ。
- エ．工事原価を算定するため。

答え・解説

正答：イ

ア：予防情報として活用する。
イ：結果的に無傷でも、同じ原因が残れば将来重大災害となる可能性がある。
ウ：再発防止が目的である。
エ：主目的ではない。
総合解説：事故とヒヤリハットを共通の原因分析体系で扱うと予防力が高まる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0067 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

高所作業者が墜落制止用器具を使用していなかった災害で、最も適切な原因分析はどれか。

- ア．作業者が悪い、で分析を終了する。
- イ．器具の色だけを原因とする。
- ウ．『なぜ未使用だったか』を、取付設備の有無、手順、教育、監督、作業時間圧力まで掘り下げる。
- エ．事故が起きたので原因分析は不要とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：根本原因が残る。
イ：本質的でない。
ウ：個人の未使用だけで終わると、設備や管理の根本原因を見逃す。
エ：再発防止に必要である。
総合解説：行動の背景となる作業条件・管理条件を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0068 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

作業員が通常手順を省略して誤接続した。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．本人の性格だけを原因とする。
- イ．手順書が存在すれば運用状況は調べない。
- ウ．誤接続を修正したので原因分析を終了する。
- エ．省略した理由を、手順の分かりにくさ、時間圧力、教育不足、監督状況等から分析する。

答え・解説

正答：エ

ア：管理要因を見逃す。
イ：実際に使える手順か確認する。
ウ：再発防止が必要である。
エ：手順逸脱は本人の判断だけでなく、手順設計や現場条件に原因がある場合がある。
総合解説：原因分析は『なぜ正しい行動を取りにくかったか』を考える。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0069 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

別会社のクレーン吊荷が通信作業班の作業範囲へ侵入したヒヤリハットが発生した。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．班間の作業調整、立入区域、合図・連絡、工程重複の管理が十分だったか確認する。
- イ．クレーン運転者だけを原因とし班間調整は見ない。
- ウ．通信班が存在したこと自体を原因とする。
- エ．吊荷が当たらなかったので原因なしとする。

答え・解説

正答：ア

ア：混在作業事故は個々の班だけでなく統括調整の不備が原因となることが多い。
イ：組織的原因を見逃す。
ウ：管理可能な干渉を分析すべきである。
エ：ヒヤリハットとして分析する。
総合解説：混在作業では元方調整・時間分離・区域分離を分析する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0070 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

高所作業車の安全装置が作動しなかった事象で最も適切な原因分析はどれか。

- ア．故障部品だけ交換して保全履歴は見ない。
- イ．装置故障だけでなく、始業前点検・定期点検・修理履歴・使用停止判断まで確認する。
- ウ．運転者の経験不足だけを原因とする。
- エ．安全装置は壊れるものとして対策不要とする。

答え・解説

正答：イ

ア：再発原因を見逃す。
イ：機械故障事故では設備そのものと保安全管理の両方を分析する。
ウ：設備側の異常も重要である。
エ：保全・点検が必要である。
総合解説：設備事故では故障モードと管理システムの双方を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0071 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

雨天後に仮設通路で転倒災害が発生した。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．被災者が歩いたことだけを原因とする。
- イ．雨天だったので不可抗力として終了する。
- ウ．路面の濡れ・泥、勾配、照明、排水、清掃、履物等を複合的に確認する。
- エ．通路状況を確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：環境要因を無視している。
イ：対策可能な要因がある。
ウ：転倒は一つの原因ではなく環境・設備・行動が重なって発生することがある。
エ：重要な原因情報である。
総合解説：環境条件は時間とともに変化するため、事故時の状態を再現して分析する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0072 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

同じ種類のヒヤリハットが1か月に3回発生した。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．毎回別の人なので無関係とする。
- イ．件数が増えれば自然に減ると考える。
- ウ．過去記録を見ない。
- エ．過去対策が実施されたか、効果確認されたか、別班へ水平展開されたかを確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：共通環境・手順がある可能性がある。
イ：対策が必要である。
ウ：再発傾向を把握できない。
エ：反復事象は対策の実効性や水平展開に問題がある可能性を示す。
総合解説：再発時は『原因』だけでなく『前回対策がなぜ効かなかったか』を分析する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0073 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

開口部から墜落した災害で、手すりは前工程で一時撤去され、復旧確認もなく、被災者は変更を知らなかった。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．手すり未復旧、変更管理不備、引継ぎ不足、立入管理不足を複合原因として分析する。
- イ．被災者が歩いたことだけを原因とする。
- ウ．手すりを撤去した作業者だけを原因とする。
- エ．墜落した結果だけ記録し原因を分類しない。

答え・解説

正答：ア

ア：事故直前の墜落だけでなく、設備撤去から情報伝達まで複数の防護層が破られている。
イ：管理上の複数要因を見逃す。
ウ：復旧確認・引継ぎ等も関係する。
エ：再発防止につながらない。
総合解説：重大災害では防護層がなぜ機能しなかったかを多層的に分析する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0074 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

既設盤改修で誤った回路を切断し停電が発生した。図面は旧版、現場表示は不鮮明、作業前照合も省略されていた。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．切断した作業者の手元だけを原因とする。
- イ．旧版図面管理、表示不良、回路照合手順省略、作業前確認不足を共通原因として整理する。
- ウ．旧版図面だけを原因として他要因を無視する。
- エ．停電後に復旧できたので原因分析不要とする。

答え・解説

正答：イ

ア：情報・手順の原因を見逃す。
イ：一つの誤操作の背後に情報管理・識別・手順の複数不備がある。
ウ：複数防護が失敗している。
エ：再発防止が必要である。
総合解説：総合判断では『人が間違えても事故にならない仕組み』があったかを確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0075 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

再発防止策として最も適切な考え方はどれか。

- ア．事故後に標語を増やすだけ。
- イ．被災者を交代するだけ。
- ウ．特定した原因に対応し、同じ危険が再び生じないよう設備・手順・教育・管理を改善する。
- エ．事故記録を削除する。

答え・解説

正答：ウ

ア：根本原因への対策が不足する。
イ：仕組みが変わらなければ再発する。
ウ：原因と無関係な対策を増やしても再発防止効果は低い。
エ：再発防止にならない。
総合解説：原因と対策の対応関係を明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0076 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

安全対策の『水平展開』として最も適切なものはどれか。

- ア．事故箇所だけを秘密にする。
- イ．対策を被災者だけへ伝える。
- ウ．他現場には事故情報を共有しない。
- エ．同じ危険がある他の作業班・現場・設備にも対策を適用する。

答え・解説

正答：エ

ア：他部署で同じ事故が起こり得る。
イ：範囲が狭い。
ウ：水平展開にならない。
エ：事故箇所だけ直すのではなく、類似条件へ対策を広げることで再発を防ぐ。
総合解説：類似作業の洗い出しと期限付き対策確認が有効である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0077 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

開口部墜落の再発防止策として最も優先度が高いものはどれか。

- ア．強固な手すり・覆い等で物理的に墜落できない状態を作る。
- イ．『落ちるな』と掲示するだけ。
- ウ．朝礼で注意するだけ。
- エ．経験者だけ通行させる。

答え・解説

正答：ア

ア：注意喚起よりも危険源へ直接働く工学的対策の方が実効性が高い。
イ：管理的対策のみである。
ウ：物理的危険が残る。
エ：墜落リスクは残る。
総合解説：設備対策を基本に、必要な教育・立入管理を重ねる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0078 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

誤切断事故の原因が回路照合手順の不足だった。最も適切な再発防止はどれか。

- ア．作業者へ『気を付ける』と言うだけ。
- イ．図面・現地表示・測定による複数照合を手順化し、切断前チェックを必須化する。
- ウ．図面確認をさらに省略する。
- エ．事故後も旧手順を変更しない。

答え・解説

正答：イ

ア：再現性が低い。
イ：原因が識別不足なら、個人の注意だけでなく確認工程を仕組みにする。
ウ：事故を増やす。
エ：根本原因が残る。
総合解説：手順改訂後は教育・実施確認まで行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0079 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

重機のブレーキ異常が事故原因だった。最も適切な再発防止はどれか。

- ア．故障車両だけ直して点検制度は変えない。
- イ．警報を無効化する。
- ウ．修理に加えて始業前点検項目・定期保全・異常時使用停止基準を見直す。
- エ．異常報告を禁止する。

答え・解説

正答：ウ

ア：同種故障を見逃す可能性がある。
イ：危険を増やす。
ウ：部品交換だけでなく、異常を事故前に検出する管理仕組みを改善する。
エ：早期発見できない。
総合解説：再発防止は予防保全と異常時対応の両面で行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0080 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

工具落下事故後、『今後注意するよう全員教育』だけで対策を終了する案が出た。最も適切な判断はどれか。

- ア．教育だけなら工具固定は不要である。
- イ．事故が1回なら対策不要である。
- ウ．通行者へ自己責任を求める。
- エ．教育に加え、落下防止コード・工具袋・作業下方の立入禁止等を導入する。

答え・解説

正答：エ

ア：落下可能性が残る。
イ：再発防止が必要である。
ウ：第三者保護にならない。
エ：教育は必要だが、人の注意だけに依存しない物理的対策を組み合わせる方が有効である。
総合解説：再発防止は工学的・管理的・PPE等を重層化する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0081 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

再発防止策を実施した後の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．現場巡視・点検・ヒヤリハット件数等で対策が守られ効果を上げているか確認する。
- イ．対策文書を作れば現場確認は不要である。
- ウ．一度教育すれば永久に有効とする。
- エ．同じヒヤリハットが出てても対策を見直さない。

答え・解説

正答：ア

ア：対策は実施しただけでなく、定着・効果確認まで行う必要がある。
イ：実施状況を確認する。
ウ：定着確認が必要である。
エ：効果不足を示す。
総合解説：PDCAで再発防止策を継続改善する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0082 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

高所で毎回行っていた機器設定作業を、設計変更により地上から遠隔設定できるようにした。最も適切な評価はどれか。

- ア．保護具を増やすより必ず劣る。
- イ．高所作業そのものを減らす本質的なリスク低減策である。
- ウ．高所作業回数は安全と無関係である。
- エ．設計変更は再発防止に使えない。

答え・解説

正答：イ

ア：危険源除去に近い上位対策である。
イ：危険作業を不要にする設計変更は上位のリスク低減となる。
ウ：曝露機会を減らす効果がある。
エ：有効な場合がある。
総合解説：再発防止では施工方法・設備設計そのものを変える選択肢も検討する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0083 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：応用

別現場で同型の高所作業車による転倒事故が発生した。自現場でも同型機を使用している。最も適切な対応はどれか。

- ア．自現場では事故がないので何もしない。
- イ．事故情報を作業者へ隠す。
- ウ．事故情報を入手し、自現場の地盤・アウトリガー・点検・作業方法を緊急点検して必要な対策を実施する。
- エ．同型機を無点検で使い続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：予防機会を失う。
イ：危険共有ができない。
ウ：自現場で事故が起きていなくても、同種危険へ先行対策することが水平展開である。
エ：同種事故の可能性がある。
総合解説：事故情報は組織全体で共有し、類似条件へ迅速に展開する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0084 6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：応用

誤って供用回線を切断した事故の原因が、旧版図面・不鮮明表示・照合省略だった。最も適切な再発防止はどれか。

- ア．作業者を交代するだけ。
- イ．最新版図面を配るだけで表示・照合は変えない。
- ウ．注意喚起ポスターだけ掲示する。
- エ．最新版図面の一元管理、回線表示更新、切断前の複数照合、責任者確認を組み合わせる。

答え・解説

正答：エ

ア：情報・手順の原因が残る。
イ：他の原因が残る。
ウ：根本原因への対策が不足する。
エ：複数原因に対して複数の防護層を設けることで、単一ミスが事故へ直結しにくくなる。
総合解説：再発防止は原因ごとに対応策を割り当て、重層化する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0085 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

危険状態を発見した施工管理者の是正指示として最も適切なものはどれか。

- ア．危険が切迫している場合は作業を停止させ、安全状態へ是正して確認後に再開させる。
- イ．事故が起きるまで様子を見る。
- ウ．口頭注意だけで危険設備を残す。
- エ．記録を消して作業を続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：重大災害につながる危険を発見したら工程より安全を優先する。
イ：予防にならない。
ウ：実効性が不足する。
エ：不適切である。
総合解説：是正指示は具体的・即時的で、再開条件を明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0086 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

現場是正指示を出した後に最も重要な対応はどれか。

- ア．指示書を出した時点で現場確認をしない。
- イ．是正内容が実施され、安全・品質条件を満たしたことを確認する。
- ウ．作業者の返事だけで完了扱いにする。
- エ．同じ不備が再発しても記録しない。

答え・解説

正答：イ

ア：実施されたか分からない。
イ：指示を出すだけでなく完了確認まで行って初めて是正が閉じる。
ウ：客観的確認が必要である。
エ：再発防止につながらない。
総合解説：是正指示は発見→停止→是正→確認→再開の流れで管理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0087 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

高さのある作業床で手すりの一部が外れているのを発見した。最も適切な指示はどれか。

- ア．注意して作業を続けるよう指示する。
- イ．翌週の定期点検まで待つ。
- ウ．当該区域の作業・立入りを止め、手すりを復旧して点検後に作業を再開する。
- エ．経験者だけ通行させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：物理的危険が残る。
イ：対応が遅い。
ウ：墜落防止設備の欠損は重大な危険であり、即時是正が必要である。
エ：墜落リスクは残る。
総合解説：重大危険では『誰が・いつまでに・どう直すか』を明確に指示する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0088 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

作業員がクレーン吊荷の直下を近道として通行している。最も適切な是正指示はどれか。

- ア．ヘルメット着用者なら通行可とする。
- イ．作業時間が短ければ許可する。
- ウ．口頭で一度注意し通路は変えない。
- エ．直ちに吊荷下への立入りを禁止し、通路を分離・明示して揚重作業を再開する。

答え・解説

正答：エ

ア：吊荷の衝撃は防げない。
イ：危険性は変わらない。
ウ：再発しやすい。
エ：吊荷落下時に重大災害となるため、行動注意だけでなく動線を物理的に分離する。
総合解説：是正指示は危険区域と安全通路を明確にする。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0089 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

資格が必要な機械を無資格者が操作していることが判明した。最も適切な指示はどれか。

- ア．直ちに操作を停止させ、必要資格を有する者へ交替し、配置確認手順も見直す。
- イ．短時間なので続けさせる。
- ウ．資格者の名前だけ借りる。
- エ．事故が起きなければ問題ないとする。

答え・解説

正答：ア

ア：就業制限違反の可能性があるため、即時停止と管理上の再発防止が必要である。
イ：資格要件は時間で免除されない。
ウ：不正である。
エ：法令順守が必要である。
総合解説：是正は現場停止だけでなく資格確認プロセスの改善まで行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0090 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

歩道上工事でバリケードが倒れ、歩行者が作業区域へ入れる状態になっている。最も適切な指示はどれか。

- ア．歩行者が注意すればよいとして放置する。
- イ．作業を安全側に停止し、歩行者を誘導して区画を復旧・固定し、安全確認後に再開する。
- ウ．工事終了まで倒れたままにする。
- エ．作業区域を広げて無表示にする。

答え・解説

正答：イ

ア：公衆安全を確保できない。
イ：公衆災害の危険がある場合は第三者保護を最優先する。
ウ：危険状態が継続する。
エ：さらに危険となる。
総合解説：第三者災害の是正は誘導・区画・視認性を同時に回復する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0091 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：応用

巡視で 書類の記入漏れ、 吊荷下に作業員、 資材ラベルの軽微な汚れを同時に発見した。最も優先すべき指示はどれか。

- ア．資材ラベル清掃を最優先する。
- イ．書類の記入漏れだけを先に直す。
- ウ．吊荷下の作業員を直ちに退避させ、揚重作業の立入管理を是正する。
- エ．3件すべて翌日に対応する。

答え・解説

正答：ウ

ア：切迫した生命危険より優先度が低い。
イ：吊荷下の危険を放置する。
ウ：是正の優先順位は災害の重篤度・切迫性に基づき、生命に直結する危険から対応する。
エ：吊荷下危険は即時対応が必要である。
総合解説：現場は正ではリスクの高い危険から即時に除去する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0092 6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：応用

強風下の屋上で手すりが一部外れ、クレーン吊荷も屋上付近を通過している。最も適切な是正指示はどれか。

- ア．手すりだけ直し強風・吊荷は無視する。
- イ．クレーンだけ止め高所作業は続ける。
- ウ．工程優先で全作業を継続する。
- エ．屋上・揚重作業を停止し、作業員を安全区域へ退避させ、手すり復旧・気象条件・吊荷経路を再評価してから再開する。

答え・解説

正答：エ

ア：他の重大危険が残る。
イ：墜落・強風リスクが残る。
ウ：重大災害につながる。
エ：墜落・強風・吊荷という複数の重大危険が重なっており、一部対策だけでは不十分である。
総合解説：複合危険では作業全体を止め、条件を再評価して防護層を回復する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0093 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

元請の電気通信工事で、下請契約の合計額が4,800万円である。2026年時点の技術者配置として最も適切なものはどれか。

- ア．原則として主任技術者を配置する。
- イ．必ず監理技術者を配置する。
- ウ．技術者配置は不要である。
- エ．営業所技術者だけ置けば現場技術者は不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：電気通信工事で、元請が下請へ出す合計額が5,000万円未満なら監理技術者配置要件には該当せず、主任技術者を配置する。
イ：5,000万円未満なので監理技術者要件には該当しない。
ウ：建設業許可を受けた業者には原則配置義務がある。
エ：営業所技術者と現場技術者は役割が異なる。
総合解説：元請下請総額5,000万円という基準と、請負額4,500万円以上の専任基準を区別する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0094 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

公共性のある電気通信工事で、元請請負額が4,700万円、下請総額が1,000万円である。最も適切な判断はどれか。

- ア．下請総額が少ないので専任は絶対不要である。
- イ．主任技術者を配置し、原則として専任要件の対象となる。
- ウ．必ず監理技術者を置く。
- エ．請負額が500万円を超えたので監理技術者となる。

答え・解説

正答：イ

ア：専任基準は請負額で判断する。
イ：下請総額は5,000万円未満なので主任技術者だが、請負額が4,500万円以上のため専任要件が問題となる。
ウ：監理技術者要件は下請総額5,000万円以上である。
エ：500万円は軽微工事基準であり別論点である。
総合解説：技術者の種類と専任要否は別々の基準で判定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0095 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

一次下請として電気通信工事を施工する建設業者の現場技術者について、最も適切なものはどれか。

- ア．二次下請へ5,000万円以上出せば必ず監理技術者となる。
- イ．下請業者には技術者配置義務がない。
- ウ．元請ではないため、原則として主任技術者を配置する。
- エ．元請の監理技術者を下請の主任技術者として兼用できる。

答え・解説

正答：ウ

ア：元請でない業者は原則主任技術者である。
イ：許可業者には主任技術者配置が必要となる。
ウ：監理技術者は発注者から直接請け負う元請が一定額以上を下請に出す場合に問題となる。
エ：各建設業者が自らの技術者を配置する。
総合解説：元請か下請かという立場を確認してから技術者区分を判定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0096 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

当初の下請総額4,600万円が追加工事で5,300万円に増える見込みとなった。最も適切な対応はどれか。

- ア．当初4,600万円だったので最後まで主任技術者のままでよい。
- イ．追加契約を書面化しなければ金額に含めなくてよい。
- ウ．完成後にだけ確認すればよい。
- エ．増額後の条件で特定建設業許可・監理技術者配置等を再判定し、必要な体制へ変更する。

答え・解説

正答：エ

ア：増額後に監理技術者要件が生じる。
イ：実態に基づき判断する。
ウ：施工中に適正体制を確保する。
エ：施工途中でも契約実態が基準を超えるなら、変更後の法令要件へ適合させる必要がある。
総合解説：変更契約は技術者配置・施工体制台帳等へ運動する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0097 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

電気通信工事で監理技術者が必要となる元請工事に技術者を配置する。最も適切な確認はどれか。

- ア．電気通信工事業の監理技術者となる資格・実務要件を満たすか確認する。
- イ．他業種の資格なら内容を問わず監理技術者になれる。
- ウ．経験年数だけ一切確認しなくてよい。
- エ．会社役員であれば無条件で監理技術者になれる。

答え・解説

正答：ア

ア：電気通信工事業は指定建設業7業種ではないため、所定の一級国家資格者等または指導監督的実務経験者等の要件を確認する。

イ：業種に応じた資格要件がある。

ウ：資格区分に応じ実務経験要件が関係する。

エ：役職だけでは資格要件を満たさない。

総合解説：技術者は『人数』だけでなく、対象業種に対する資格適合を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0098 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

専任が必要な監理技術者を別の現場と兼務させたい。最も適切な対応はどれか。

- ア．専任工事でも無条件に何現場でも兼務できる。
- イ．法令上の兼務特例要件を満たすか、工事規模・距離・連絡体制・ICT活用等を事前確認する。
- ウ．工事額を確認せず兼務させる。
- エ．兼務特例を使えば技術者配置自体が不要になる。

答え・解説

正答：イ

ア：法定要件がある。

イ：専任原則には一定の特例があるが、会社判断だけで自由に兼務できるわけではない。

ウ：適用条件を確認する必要がある。

エ：配置義務は残る。

総合解説：兼務は例外制度として要件を厳密に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0099 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

専任の主任技術者が急病で数日出勤できなくなった。最も適切な対応はどれか。

- ア．名前だけ現場書類に残せばよい。
- イ．無資格者を代替者として登録する。
- ウ．発注者等と必要な調整を行い、要件を満たす代替技術者の配置等を検討して適法な体制を確保する。
- エ．欠勤中は技術者不在のまま重要作業を続ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：実態ある配置が必要である。
イ：資格要件を満たさない。
ウ：専任が必要な現場では、名義だけ残して不在状態を放置してはならない。
エ：適正施工体制を確保できない。
総合解説：技術者不在は工程だけでなく法令適合へ直結するため、速やかな体制見直しが必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0100 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

元請請負額8,000万円、下請総額4,900万円の電気通信工事で最も適切な技術者判断はどれか。

- ア．請負額8,000万円なので必ず監理技術者である。
- イ．下請総額4,900万円なので技術者配置不要である。
- ウ．専任要件は下請総額だけで判断する。
- エ．監理技術者ではなく主任技術者となるが、請負額4,500万円以上のため専任要件を別途確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：監理技術者要件は下請総額で判断する。
イ：主任技術者は必要である。
ウ：請負額が基準となる。
エ：監理技術者かどうかは下請総額、専任かどうかは請負額で判断する。
総合解説：二つの金額基準を混同しないことが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0101 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

同一会社が近接する2件の公共電気通信工事を受注し、どちらも請負額5,000万円である。1人の主任技術者で対応したい。最も適切な判断はどれか。

- ア．両工事が専任対象となるため、兼務可能な法定特例要件を満たすか確認し、満たさなければ別々に技術者を配置する。
- イ．現場が近ければ無条件で1人でよい。
- ウ．請負額が同じなら1人でよい。
- エ．公共工事では技術者配置が不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：近接しているだけでは自動的に兼務できず、専任制度の特例要件確認が必要である。
イ：近接だけで特例適用とはならない。
ウ：金額一致は兼務条件ではない。
エ：逆に適正配置が重要である。
総合解説：複数現場配置では工事ごとの専任判定後に兼務特例を検討する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0102 6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

元請請負額1億2,000万円、下請総額5,600万円の公共電気通信工事である。最も適切な施工体制判断はどれか。

- ア．主任技術者だけでよい。
- イ．特定建設業許可を前提に監理技術者を配置し、請負額4,500万円以上なので専任要件も確認する。
- ウ．一般建設業許可で5,600万円を下請に出してよい。
- エ．監理技術者なら専任要件は一切確認不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：下請総額が監理技術者基準を超えている。
イ：下請総額5,000万円以上で特定建設業・監理技術者、請負額4,500万円以上で専任が問題となる。
ウ：特定建設業許可が必要である。
エ：専任は別基準で判定する。
総合解説：法規事例では、許可区分・技術者種類・専任要否を順に判定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0103 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

民間の電気通信工事で、特定建設業者である元請の下請総額が5,200万円である。最も適切な対応はどれか。

- ア．下請総額が1億円未満なので台帳不要である。
- イ．民間工事では施工体制台帳制度は存在しない。
- ウ．施工体制台帳・施工体系図を整備して下請関係を管理する。
- エ．施工体系図だけ作れば台帳は不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：基準は5,000万円である。
イ：一定条件で作成が必要である。
ウ：建築一式以外では下請総額5,000万円以上で施工体制台帳等の作成要件が生じる。
エ：必要な書類を整備する。
総合解説：施工体制台帳は元請が下請構造を把握するための重要資料である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0104 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

施工体制台帳を作成する工事で、一次下請が二次下請を使用する場合に最も適切な対応はどれか。

- ア．二次下請は元請へ一切知らせなくてよい。
- イ．口頭だけで会社名を伝えれば記録不要である。
- ウ．二次下請が増えても施工体系図は更新しない。
- エ．一次下請から元請へ再下請負通知書等で下位の施工体制を通知する。

答え・解説

正答：エ

ア：施工体制把握ができない。
イ：所定の施工体制書類へ反映する。
ウ：最新状態へ更新する。
エ：元請が二次以下の下請関係を把握するため、再下請負通知の仕組みが用いられる。
総合解説：重層下請が見える化することが施工体制管理の目的である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0105 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

公共工事で下請契約を締結した場合の施工体制台帳について最も適切な考え方はどれか。

- ア．入契法等の適用を確認し、民間工事の金額基準だけで不要とは判断しない。
- イ．公共工事でも5,000万円未満なら必ず不要である。
- ウ．公共工事では施工体系図を作ってはならない。
- エ．下請業者名は発注者へ隠す。

答え・解説

正答：ア

ア：公共工事では施工体制把握が強化されており、下請金額にかかわらず作成が必要となる場合がある。
イ：公共工事の別ルールがある。
ウ：施工体制確認に用いる。
エ：適正施工体制の確認に反する。
総合解説：公共・民間を区別して作成要件を判定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0106 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

工事途中で新たな二次下請業者が加わった。最も適切な対応はどれか。

- ア．当初版のまま完成まで使う。
- イ．施工体制台帳・施工体系図・作業員名簿等の必要箇所を更新する。
- ウ．二次下請は書類更新対象外とする。
- エ．完成後にだけ追記する。

答え・解説

正答：イ

ア：実態と不一致になる。
イ：施工体制書類は実際の現場体制と一致している必要がある。
ウ：下位階層も把握する。
エ：施工中に最新状態を管理する。
総合解説：体制変更は書類・安全調整・工程へ同時に反映する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0107 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

元請が工事の実質的な施工管理を行わず、受注した工事全部をそのまま1社へ任せようとしている。最も適切な判断はどれか。

- ア．元請が契約だけ取れば丸投げしてよい。
- イ．下請が優秀なら法令確認不要である。
- ウ．一括下請負の禁止に抵触し得るため、元請として実質的に施工へ関与する体制を確保する。
- エ．施工管理記録を作らなければ一括下請負にならない。

答え・解説

正答：ウ

ア：実質的関与が必要である。
イ：一括下請負禁止は別問題である。
ウ：建設業法は、例外を除き工事の全部または主たる部分の一括下請負を禁止している。
エ：実態で判断する。
総合解説：元請は工程・品質・安全・下請調整等へ実質的に関与する必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0108 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

複数下請が混在する工事で、作業員名簿を活用する方法として最も適切なものはどれか。

- ア．氏名だけ分かれば資格確認は不要である。
- イ．退場した作業員も永続的に在場扱いとする。
- ウ．下請ごとに形式が違えば全体把握しない。
- エ．所属、職種、資格等を把握し、入場・配置・安全管理へ反映する。

答え・解説

正答：エ

ア：危険作業では資格確認が必要である。
イ：最新の在場状況を管理する。
ウ：元請が全体を把握する。
エ：作業員名簿は施工体制把握だけでなく、資格・所属確認にも有効である。
総合解説：施工体制資料を安全・労務管理と結びつけることが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0109 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

下請総額4,900万円の民間工事で追加契約により5,100万円となった。最も適切な対応はどれか。

- ア．特定建設業・監理技術者・施工体制台帳等の要件をまとめて再確認する。
- イ．施工体制台帳だけ追加し技術者配置は見直さない。
- ウ．監理技術者だけ変更し許可区分は確認しない。
- エ．当初契約額を基準に何も変更しない。

答え・解説

正答：ア

ア：5,000万円を超えると複数の建設業法上の要件が同時に変わる。
イ：監理技術者要件も生じる。
ウ：特定建設業許可も問題となる。
エ：変更後実態で判断する。
総合解説：金額閾値を跨ぐ変更では法令チェックリストを再実行する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0110 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

巡視で施工体系図に載っていない下請業者が作業していることが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．作業品質が良ければ書類は不要とする。
- イ．作業関係を確認し、契約・再下請通知・施工体制台帳等を是正して実態と一致させる。
- ウ．会社名を隠して作業を続ける。
- エ．完成後まで確認しない。

答え・解説

正答：イ

ア：施工体制管理上不適切である。
イ：施工体制書類にない業者の存在は、無届再下請や管理漏れの可能性を示す。
ウ：是正にならない。
エ：施工中に是正する。
総合解説：書類は形式ではなく、現場の実際の施工関係を表す必要がある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0111 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

元請A社の下に一次下請B・C社、B社の下に二次下請D社が入り、下請総額は5,400万円である。最も適切な管理はどれか。

- ア．D社は二次下請なので元請が把握しなくてよい。
- イ．B社だけ記載すればC・D社は省略できる。
- ウ．A社が監理技術者を配置し、B・C・Dを含む施工体制台帳・施工体系図を整備し、各社の役割を把握する。
- エ．監理技術者を置けば施工体制書類は不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：施工体制台帳で把握する。
イ：実態を反映する必要がある。
ウ：5,000万円以上の下請総額では監理技術者と施工体制台帳等が必要で、下位階層まで把握する。
エ：両方の要件を満たす。
総合解説：技術者配置と施工体制書類は相互補完的に管理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0112 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

道路地下へ通信管路を設置し、施工時に車線規制を行う。手続の組合せとして最も適切なものはどれか。

- ア．両方とも河川管理者へ申請する。
- イ．両方とも労働基準監督署へ申請する。
- ウ．道路占用許可だけで車線規制条件も自動的に満たす。
- エ．道路占用は道路管理者、道路使用は所轄警察署長へ必要手続を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：制度が異なる。
イ：労働法令の機関である。
ウ：道路使用許可が別途問題となる。
エ：恒久的な道路空間使用と工事中の交通規制は別制度である。
総合解説：許可目的と申請先を正確に整理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0113 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

河川区域内で土地を一時占用し、通信設備支持物を設置して掘削する場合、最も適切な手続確認はどれか。

- ア．河川法24条・26条・27条の関係を整理して河川管理者へ確認する。
- イ．24条だけ確認すれば他の行為は全て含まれる。
- ウ．道路使用許可だけで河川工事ができる。
- エ．元請契約があれば行政許可は不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：土地占用、工作物設置、土地形状変更はそれぞれ別の許可対象となる。
イ：行為ごとに確認する。
ウ：河川法上の許可が別途必要である。
エ：契約と行政許可は別である。
総合解説：河川工事では場所と行為を組み合わせで許可可否を判断する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0114 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

現場災害で労働者が5日間休業する見込みとなった。最も適切な手続はどれか。

- ア．四半期末まで待ってまとめて提出する。
- イ．労働者死傷病報告を所轄労働基準監督署長へ遅滞なく提出する。
- ウ．会社の日報だけで済ませる。
- エ．被災者が同意すれば報告不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：4日以上は遅滞なく報告する。
イ：休業4日以上の方災は遅滞なく報告する対象である。
ウ：法定報告が必要である。
エ：法定義務である。
総合解説：2025年1月以降は原則電子申請での提出となっている。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0115 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

有線電気通信法の届出対象となる設備を新設する場合の原則として最も適切なものはどれか。

- ア．完成後10年以内ならよい。
- イ．道路占用許可を受ければ自動的に届出済みとなる。
- ウ．工事開始の日の2週間前までに所定の届出を行う。
- エ．通信設備はすべて届出不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：事前届出である。
イ：別制度である。
ウ：有線電気通信法では適用除外を除き、設備設置の事前届出を定めている。
エ：対象設備がある。
総合解説：適用除外設備かどうかも含め施工前に確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0116 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

古い建築物で通信配線用の壁貫通を伴う改修工事を行う。最も適切な手続管理はどれか。

- ア．穴が小さいので無条件で調査不要とする。
- イ．施工後に粉じんを見て判断する。
- ウ．通信工事という理由だけで石綿法令の対象外とする。
- エ．着工前に石綿事前調査を行い、対象工事なら必要な結果報告・掲示等を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：工事内容と建材を確認する。
イ：事前調査が必要である。
ウ：建築物改修として対象となり得る。
エ：小規模な通信改修でも建材を切断・穿孔するなら石綿調査が必要となる場合がある。
総合解説：設備工事でも建築材料へ手を加える場合は石綿法令を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0117 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

道路占用・河川許可が必要な工事で、工事着手日だけ先に確定している。最も適切な工程管理はどれか。

- ア．申請資料作成、協議、審査、補正、許可取得を着工前工程として組み込む。
- イ．許可前に先行着工する。
- ウ．許可期間は工程に影響しないを考える。
- エ．完成後にまとめて申請する。

答え・解説

正答：ア

ア：行政許可は工事着手の先行条件であり、施工工程の一部として管理する。
イ：無許可施工となり得る。
ウ：着工可否を左右する。
エ：事前許可が原則である。
総合解説：手続工程をクリティカルパスとして管理する場合もある。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0118 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

届出済みの有線電気通信設備で、設置場所・設備概要に関わる大きな変更が生じた。最も適切な対応はどれか。

- ア．一度届出すれば将来の変更はすべて自由である。
- イ．変更が届出対象が確認し、必要な変更届を工事前に行う。
- ウ．完成図だけ修正すれば行政手続は不要である。
- エ．変更内容を記録しない。

答え・解説

正答：イ

ア：変更手続が必要な場合がある。
イ：設置届後も、法定届出事項に変更があれば変更手続が必要となる場合がある。
ウ：届出との整合が必要である。
エ：追跡性を失う。
総合解説：変更管理では設計・契約だけでなく法定手続への影響も確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0119 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

道路橋へ通信ケーブルを添架する工事で、道路占用許可は取得済みだが河川区域内の工作物手続と車線規制の道路使用許可が未確認だった。最も適切な対応はどれか。

- ア．道路占用許可があるので他の許可は不要とする。
- イ．未確認のまま着工し後日整理する。
- ウ．着工前に河川法・道路交通法の必要手続を確認し、各許可条件を整合させてから施工する。
- エ．施工者の経験だけで許可不要と決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：別法令を確認する必要がある。
イ：無許可施工のリスクがある。
ウ：一つの許可取得で他法令が自動的に満たされるわけではない。
エ：行政機関へ確認する。
総合解説：複数法令が重なる工事では許可マトリクスで抜けを防止する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0120 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

道路上の通信工事で一般車両との接触事故が起き、作業員も5日休業見込みとなった。最も適切な対応はどれか。

- ア．警察へ連絡すれば労災報告は不要である。
- イ．労災報告だけで道路管理者への連絡は不要である。
- ウ．事故が軽微に見えれば記録しない。
- エ．負傷者救護・二次災害防止を行い、警察・道路管理者等への事故連絡と労働者死傷病報告を必要に応じて実施する。

答え・解説

正答：エ

ア：別制度である。
イ：道路工事条件に応じ必要な報告がある。
ウ：事実に基づき必要手続を行う。
エ：一つの事故でも道路管理・交通事故・労災報告の複数手続が同時に関係する。
総合解説：事故時は人命優先の後、関係法令ごとに報告先と期限を整理する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0121 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

次の作業関係がある。A：2日→B：3日→D：2日、A：2日→C：4日→D：2日。全体工期を決める経路として最も適切なものはどれか。

- ア．A→C→D。
- イ．A→B→D。
- ウ．A→Bだけ。
- エ．C→Dだけ。

答え・解説

正答：ア

ア：A-B-Dは7日、A-C-Dは8日なので、より長いA-C-Dが全体工期を支配する。
イ：合計7日で、A-C-Dの8日より短い。
ウ：後続Dを含めて評価する必要がある。
エ：先行Aを含めた経路で評価する。
総合解説：図表読解では作業日数だけでなく前後関係をたどって最長経路を確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0122 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

予定／実績の進捗率が、ラック据付80％／80％、配線70％／50％、試験40％／40％である。最も遅れている作業はどれか。

- ア．ラック据付。
- イ．配線。
- ウ．試験。
- エ．すべて同じ。

答え・解説

正答：イ

ア：予定と実績が一致している。
イ：配線は予定70％に対し実績50％で20ポイントの遅れがある。
ウ：予定と実績が一致している。
エ：配線だけ差がある。
総合解説：予定と実績の差を定量的に比較して遅延箇所を抽出する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0123 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

接続損失の規格値が0.30dB以下で、測定結果が 0.18、 0.24、 0.35、 0.27dBである。是正対象として最も適切なものはどれか。

- ア . .
- イ . .
- ウ . .
- エ . .

答え・解説

正答：ウ

ア：0.18dBは規格内である。
イ：0.24dBは規格内である。
ウ：0.35dBは規格値0.30dBを超えている。
エ：0.27dBは規格内である。
総合解説：品質表は単位と『以上・以下』の方向を確認して判定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0124 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

作業班の内訳が、A：高所作業車資格あり、B：玉掛け資格あり、C：資格なし。予定作業は高所作業車操作1名と玉掛け1名である。最も適切な配置はどれか。

- ア . 高所作業車はB、玉掛けはCとして、保有資格と異なる役割へ割り当てる。
- イ . 高所作業車はC、玉掛けはAとして、資格表示にない役割へ入れ替える。
- ウ . 資格を確認せず3人で交替する。
- エ . 高所作業車はA、玉掛けはBとして、各保有資格と作業を一致させる。

答え・解説

正答：エ

ア：必要資格が一致しない。
イ：Cは資格がなく、Aの玉掛け資格も示されていない。
ウ：就業制限等に反する可能性がある。
エ：各作業に必要な資格を持つ者を対応させる必要がある。
総合解説：図表の資格情報を作業要件へ対応付けて配置判断する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0125

6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

作業Aの余裕0日、Bの余裕2日、Cの余裕5日、Dの余裕1日で、各作業が1日遅れている。全体工期への影響を最も優先して確認すべき作業はどれか。

- ア．A。
- イ．B。
- ウ．C。
- エ．D。

答え・解説

正答：ア

ア：Aは余裕0日で、1日の遅れがそのまま全体工期へ影響する可能性が高い。
イ：余裕2日があり1日遅れを吸収できる可能性がある。
ウ：余裕5日がある。
エ：余裕1日なので影響はあるがAより優先度は低い。
総合解説：遅延日数だけでなく余裕時間との比較が必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0126

6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

不良件数が、班A：1件、班B：9件、班C：0件。使用材料・測定器は共通で、班Bだけ異なる端末処理工具を使用していた。最初に疑うべき要因はどれか。

- ア．材料ロットだけ。
- イ．班Bの端末処理工具・作業方法。
- ウ．測定器だけ。
- エ．天候だけ。

答え・解説

正答：イ

ア：全班共通なので班B集中を説明しにくい。
イ：不良が班Bへ集中し、他条件が共通なら班B固有条件が有力な原因候補となる。
ウ：全班共通条件である。
エ：示された情報では班B固有性を説明しない。
総合解説：図表読解では不良の偏りと共通・固有条件を照合する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0127 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

配線作業は残り100本、現在4人で1日20本施工し残り5日。工期上は3日で完了する必要がある。単純比例が成り立つと仮定した場合、必要人数として最も近いものはどれか。

- ア．4人。（現有人員4人のまま施工する案）
- イ．5人。（5人で1日25本を見込む案）
- ウ．7人。（必要総工数から切り上げて7人とする案）
- エ．6人。（6人で1日30本・3日90本とする案）

答え・解説

正答：ウ

ア：3日では60本しか施工できない。
イ：3日では75本で不足する。
ウ：1人1日あたり5本なので、3日で100本には $100 \div (5 \times 3) = 6.67$ 人、切り上げて7人必要となる。
エ：3日では90本で不足する。
総合解説：計算結果だけでなく、実際には作業空間や干渉による生産性低下も別途確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0128 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

設計高さ1000mmに対し、5測点の実測が992、993、992、994、993mmである。最も適切な判断はどれか。

- ア．各点がばらばらなので共通原因は考えない。
- イ．平均が近ければ無条件で合格とする。
- ウ．設計値を993mmへ変更する。
- エ．全点が同じ方向へ偏っており、基準点・墨出し等の系統誤差を疑う。

答え・解説

正答：エ

ア：同方向へ集中している。
イ：個別規格と原因を確認する。
ウ：設計値を勝手に変更できない。
エ：値が一貫して設計値より6～8mm低く、ランダム誤差より共通原因の可能性が高い。
総合解説：分布の形から施工・測定の系統的な偏りを考える。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0129 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

巡視結果： 書類押印漏れ、 開口部手すり欠損、 資材表示の一部汚れ、 休憩所掲示の更新遅れ。最優先の是正はどれか。

- ア． 開口部手すり欠損。
- イ． 書類押印漏れ。
- ウ． 資材表示の一部汚れ。
- エ． 休憩所掲示の更新遅れ。

答え・解説

正答：ア

ア：墜落による重大災害へ直結する切迫危険を最優先に是正する。
イ：重要だが生命への切迫性は低い。
ウ：切迫した重大危険より優先度が低い。
エ：同様に優先度が低い。
総合解説：図表上の指摘件数ではなく、リスクの重篤度・切迫性で優先順位を決める。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0130 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

工事条件：道路地下へ管路新設、車線規制あり、河川区域外。取得済み：道路占用許可のみ。追加確認が必要な手続として最も適切なものはどれか。

- ア．河川法24条許可。（河川区域内の土地占用に関する手続）
- イ．道路使用許可。（車線規制を伴う道路使用に関する手続）
- ウ．河川法26条許可。（河川区域内の工作物設置に関する手続）
- エ．建築確認。（建築物の確認申請に関する手続）

答え・解説

正答：イ

ア：河川区域外なので条件上該当しない。
イ：車線規制を伴う道路上作業では道路交通法上の道路使用許可が問題となる。
ウ：同様に河川区域外である。
エ：示された工事条件だけでは中心的手続ではない。
総合解説：工事条件と取得済み許可を照合して不足を抽出する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0131 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

経路1：A2日→B4日→E2日、経路2：A2日→C3日→D2日→E2日。現在Bが1日遅延、Cが2日遅延している。最も適切な判断はどれか。

- ア．Bの1日遅延だけを見て経路1を最優先する。
- イ．両経路は常に同じ重要度である。
- ウ．遅延後は経路1が9日、経路2が11日となるため、経路2側の回復を優先する。
- エ．Cの遅延は全体工期に影響しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：全経路の遅延後所要を比較する必要がある。
イ：所要日数が異なる。
ウ：元の所要は経路1が8日、経路2が9日。遅延反映後は9日と11日で、経路2がより支配的となる。
エ：経路2が最長となる。
総合解説：工程表は現時点の実績で再計算し、クリティカル経路の変化を捉える。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0132 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

切替前日の状況：工程遅延2時間、重要回線1本が規格外、高所作業は強風で中止基準到達。最も適切な判断はどれか。

- ア．2時間遅延を取り戻すため強風下で高所作業を続ける。
- イ．規格外回線を未是正のまま切替する。
- ウ．工程表だけ更新して現場条件は変えない。
- エ．高所作業は中止し、規格外回線を是正・再試験した上で、必要なら切替時刻変更を関係者と協議する。

答え・解説

正答：エ

ア：安全基準違反となる。
イ：品質リスクが高い。
ウ：安全・品質への対応が必要である。
エ：安全中止基準と品質不適合は工程遅延より優先して解消する必要がある。
総合解説：複合表では工程だけでなく、安全・品質の必須条件を同時に満たす判断を行う。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0133 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

施工条件を整理する際、『庁舎の通信停止は深夜0時～2時のみ可能』はどのような条件として扱うのが最も適切か。

- ア．施工時間を制約する条件。
- イ．工事と無関係な参考情報。
- ウ．品質規格値そのもの。
- エ．材料の性能条件。

答え・解説

正答：ア

ア：停止可能時間は施工手順・人員・仮設回線等を定める重要な制約条件である。
イ：施工計画へ直接影響する。
ウ：時間制約であり品質規格ではない。
エ：施工時間に関する条件である。
総合解説：複合問題では条件を『時間・場所・品質・安全・法令』に分類すると整理しやすい。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0134 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

次のうち施工者が任意に緩和できない必須条件として最も適切なものはどれか。

- ア．作業班の休憩場所の候補。
- イ．法令で定められた就業制限業務の資格要件。
- ウ．資材搬入順序の一案。
- エ．仮設事務所内の机配置。

答え・解説

正答：イ

ア：複数候補から選択できる場合がある。
イ：法令要件は工程都合や施工者判断で任意に緩和できない。
ウ：条件内で最適化できる。
エ：施工者裁量が大きい。
総合解説：条件整理では『変えられない条件』を先に固定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0135 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

施工条件が『通信停止は最大2時間』『切替作業は通常3時間』『仮設回線は使用不可』である。最初に行うべき判断はどれか。

- ア．通常どおり3時間停止する。
- イ．時間超過を隠す。
- ウ．現行手順では条件を満たせないため、作業分割・事前作業・停止時間変更等を再検討する。
- エ．条件を確認せず当日現場で判断する。

答え・解説

正答：ウ

ア：停止条件に違反する。
イ：不適切である。
ウ：2時間制約に対し3時間必要なので、条件間に明確な矛盾がある。
エ：事前調整が必要である。
総合解説：実行不可能な条件セットを早期に見つけることが重要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0136 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

工期短縮要求と、安全上の強風中止基準が同時にある。最も適切な条件整理はどれか。

- ア．工期短縮のため中止基準を緩和する。
- イ．両条件を同じ優先度として現場作業者に任せる。
- ウ．中止基準を工程表から削除する。
- エ．強風中止基準を必須条件として守り、その範囲内で工期短縮策を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：安全を損なう。
イ：必須条件の優先を明確にする。
ウ：実際の危険は消えない。
エ：安全基準は工程要求より優先して守るべき制約である。
総合解説：優先順位は法令・安全・品質など変更不能条件から設定する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0137 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

『道路使用許可が必要』『発注者指定の夜間施工』『機器は指定メーカー』の3条件を整理する場合、最も適切な分類はどれか。

- ア．道路使用許可は法令条件、夜間施工と指定メーカーは契約・発注条件として整理する。
- イ．すべて法令条件である。
- ウ．すべて施工者の自由条件である。
- エ．道路使用許可だけ契約条件である。

答え・解説

正答：ア

ア：条件の根拠を分けると変更可能性と手続先を判断しやすい。
イ：夜間施工・メーカー指定は通常契約条件である。
ウ：法令・契約上拘束される。
エ：道路交通法上の手続である。
総合解説：条件の出所を整理すると、誰と協議すべきかが明確になる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0138 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

機器据付の前提として『基礎完成』『搬入経路確保』『受入検査合格』が必要である。基礎が未完成の場合の最も適切な判断はどれか。

- ア．受入検査合格だけで据付を始める。
- イ．据付を開始せず、基礎完成を先行条件として工程を再調整する。
- ウ．機器を仮置きしたまま無理に固定する。
- エ．基礎未完成を記録から消す。

答え・解説

正答：イ

ア：基礎完成が未達である。
イ：先行条件を満たさず作業すると手戻り・品質不良・安全問題につながる。
ウ：品質・安全上不適切である。
エ：条件は変わらない。
総合解説：複合条件は『すべて満たす必要があるAND条件』かを確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0139 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

納期遅延した機器の代替品候補が、性能は同等だが寸法が大きく既設ラックへ収まらない。最も適切な判断はどれか。

- ア．性能同等なら寸法は無視する。
- イ．納期だけ短ければ採用する。
- ウ．性能だけで採用せず、寸法・取付・電源・認証・承認など全条件を確認する。
- エ．既設ラックを無断改造する。

答え・解説

正答：ウ

ア：施工不能となる。
イ：適合条件が不足する。
ウ：代替案は一つの条件を満たしても他条件を満たさなければ実行できない。
エ：設計・承認確認が必要である。
総合解説：代替案評価は要求条件のチェックリストで比較する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0140 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

条件：停止2時間以内、作業員6人まで、仮設回線使用可、事前作業は昼間可。最も適切な施工方案はどれか。

- ア．夜間に全配線をゼロから開始する。
- イ．作業員を12人投入する。
- ウ．仮設回線を使わず供用停止を4時間に延ばす。
- エ．昼間に仮設回線と事前配線を完成させ、夜間2時間は切替・確認へ限定する。

答え・解説

正答：エ

ア：2時間内完了が困難である。
イ：人員上限に反する。
ウ：停止条件に反する。
エ：変更できない停止時間と人員制約を守り、利用可能な仮設回線・事前作業を活用する案が適切である。
総合解説：条件整理では使える選択肢を活用し、必須制約を破らない案を選ぶ。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0141 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

工事条件：道路上作業、夜間3時間、重要回線切替、強風予報、完成試験必須。最も適切な計画整理はどれか。

- ア．道路使用等の許可を確保し、強風中止基準を守り、試験を省略せず、停止3時間内に収める手順を事前に検証する。
- イ．時間内に収めるため試験を省略する。
- ウ．許可が間に合わなくても着工する。
- エ．強風でも工程優先で高所作業する。

答え・解説

正答：ア

ア：法令・安全・品質は必須条件として固定し、その範囲で工程を最適化する。
イ：品質必須条件に反する。
ウ：法令条件に反する。
エ：安全条件に反する。
総合解説：複合問題は条件の優先順位と変更可否を整理すると判断しやすい。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0142 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

工程・品質・安全の問題が同時に発生した場合の基本的な判断として最も適切なものはどれか。

- ア．工程遅延だけを最優先する。
- イ．人命に関わる切迫した安全リスクをまず除去し、その後に品質・工程への対応を整理する。
- ウ．品質記録だけ先に整理する。
- エ．すべて翌日に対応する。

答え・解説

正答：イ

ア：重大安全リスクを放置してはならない。
イ：複数問題が同時発生した場合はリスクの重篤度・切迫性で優先順位を決める。
ウ：切迫危険より優先度が低い。
エ：即時対応が必要な危険がある。
総合解説：総合判断は『最も重大な結果を防ぐ』ことから始める。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0143 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

当日、搬入経路・クレーン位置・作業時間が同時に変更された。最も適切な対応はどれか。

- ア．朝礼済みなので変更後も当初計画のまま作業する。
- イ．運転者だけに伝える。
- ウ．工程・安全・交通・揚重条件を再評価し、変更計画を関係者へ周知してから作業する。
- エ．完成後に変更記録だけ作る。

答え・解説

正答：ウ

ア：新たな危険・干渉が生じる。
イ：関係班全体への周知が必要である。
ウ：複数条件変更は当初計画の前提を崩すため総合再評価が必要である。
エ：施工前に評価する必要がある。
総合解説：変更管理は安全・工程・許可・品質への波及を横断確認する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0144 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

工程が1日遅れている日に強風警報が出て、高所アンテナ作業の中止基準に達した。最も適切な判断はどれか。

- ア．遅延回復のため高所作業を続ける。
- イ．風速記録を残さず作業する。
- ウ．作業員の経験で中止基準を無視する。
- エ．高所作業を中止し、屋内作業への切替や後日の回復策を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：重大災害リスクがある。
イ：不適切である。
ウ：基準を守る必要がある。
エ：工程遅延があっても安全中止基準を破って作業してはならない。
総合解説：安全を守った上で代替工程に切り替えるのが総合的な施工管理である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0145 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

重要回線の切替直前に一部測定値が規格外となった。利用者は予定時刻どおりの切替を求めている。最も適切な判断はどれか。

- ア．不良原因を是正し適合を確認するまで切替を保留し、利用者へ影響と変更案を説明する。
- イ．予定優先で規格外のまま切替する。
- ウ．規格値を実測値へ変更する。
- エ．不良記録を削除して切替する。

答え・解説

正答：ア

ア：供用開始後の障害リスクが高いため、重要品質を未達のまま切替すべきではない。
イ：品質要求を満たさない。
ウ：不適切である。
エ：虚偽管理となる。
総合解説：工程変更が必要でも、品質適合を優先して正式に調整する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0146 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

歩道上工事中、保安柵が倒れて歩行者が作業区域へ進入できる状態となった。最も適切な判断はどれか。

- ア．歩行者が注意すればよいとして続ける。
- イ．作業を停止または安全側に制限し、歩行者誘導と保安柵復旧を行ってから再開する。
- ウ．作業員だけ保護具を増やす。
- エ．工事終了まで柵を放置する。

答え・解説

正答：イ

ア：施工者側で安全を確保する。
イ：第三者への切迫危険があるため、施工継続より公衆安全を優先する。
ウ：第三者保護にならない。
エ：危険が継続する。
総合解説：公衆災害防止は作業区域と一般動線を確実に分離することが基本である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0147 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

専任が必要な主任技術者が急病で不在となったが、工程上は重要作業を進めたい。最も適切な判断はどれか。

- ア．名義だけ残して作業を続ける。
- イ．無資格の班長を主任技術者扱いにする。
- ウ．適法な代替技術者等の体制を確保するまで、技術者配置要件に反する施工を進めない。
- エ．作業終了後に技術者不在を記録するだけでよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：実態ある配置が必要である。
イ：資格要件を満たさない。
ウ：工程都合で法定技術者配置を無視することはできない。
エ：施工時点で適法な体制が必要である。
総合解説：法令要件は変更不能条件として工程調整より優先する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0148 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

同一作業班の施工箇所で品質不良が連続し、工程も遅延している。最も適切な対応はどれか。

- ア．人員を増やして同じ手順を続ける。
- イ．検査を減らして工程を回復する。
- ウ．不良箇所を隠して次工程へ進む。
- エ．同種作業を一時確認し、原因分析・手順是正・影響範囲確認を行った上で工程回復策を再構成する。

答え・解説

正答：エ

ア：不良を拡大する可能性がある。
イ：品質保証を損なう。
ウ：不適切である。
エ：不良を抱えたまま施工量だけ増やすと手戻りが拡大する。
総合解説：工程回復より先に品質工程の安定化が必要である。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0149 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：応用

供用中病院で天井通信工事を行う。直下は患者動線で、夜間2時間のみ作業可、天井内には防火区画貫通部がある。最も適切な計画はどれか。

- ア．患者動線を分離し、昼間に事前準備を行い、夜間は必要作業へ限定し、防火区画貫通部を適合工法で復旧する。
- イ．患者通行中に直上作業する。
- ウ．時間短縮のため防火処理を省略する。
- エ．夜間2時間で全材料搬入から開始する。

答え・解説

正答：ア

ア：第三者安全、停止時間、防火性能をすべて満たす施工計画が必要である。
イ：第三者災害リスクがある。
ウ：建築・防火要求を満たさない。
エ：時間超過リスクが高い。
総合解説：供用施設工事は利用者安全・運用・建築要求を統合して計画する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0150 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：応用

台風接近中の屋外通信工事で、強風中止基準到達、仮設電源停止、道路側バリケード転倒、切替予定まで2時間、が同時発生した。最も適切な判断はどれか。

- ア．切替時刻を守るため全作業を継続する。
- イ．作業員・第三者の安全確保と退避・道路側区画復旧を最優先し、電源・工程は安全条件回復後に再計画する。
- ウ．仮設電源復旧だけを優先し道路側危険を放置する。
- エ．工程表を書き換えるだけで現場対策をしない。

答え・解説

正答：イ

ア：重大災害リスクがある。
イ：強風と第三者危険は直に対応すべき重大リスクで、切替時刻は必要なら変更する。
ウ：第三者災害が残る。
エ：危険状態は解消しない。
総合解説：現場総合判断では人命・公衆安全→法令・品質→工程の順で状況に応じて優先順位を組み立てる。
対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20